

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171000187		
法人名	特定非営利活動法人楠の木会		
事業所名	グループホーム楠の木園		
所在地	佐賀県佐賀市川副町大字福富40-4 (電 話) 0952-45-9003		

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 21 年 2 月 10 日	評価確定日	平成 21 年 3 月 25 日

【情報提供票より】(平成21年1月10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 1 月 5 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 5 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 4.2	

(2)建物概要

建物構造	木造
	2 階建ての 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000	円	その他の経費(月額)	9,000	円
敷金	無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)		有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり		600	円	

(4)利用者の概要(平成21年1月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	0 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.3 歳	最低	63 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	小柳記念病院・中島歯科・平野医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

物静かな住宅地の趣き深い民家を改修して、一軒家でグループホームの9名とデイサービスを利用される方が一緒にゆったりと毎日を過ごされている。居室からリビングに続く縁側は、太陽の光がさんさんとふりそそぎ、ゆったりとくつろげる空間となっている。さらにその縁側から望む庭は広々として木も剪定されており、見て楽しめるようになっている。昔からの地元の人間関係が密な地域のため、地域の住民の方がボランティアで子どもと一緒にホームに訪問したり、地域密着としての立地条件も良好である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の改善である、介護計画作成について等、できるところから改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で評価の各項目を読み上げて、その場で意見を聞き、まとめられている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に一回ホームの行事にあわせて実施されている。家族の代表も毎回交代で参加されている。行政の職員が参加される時にはホームから逆に質問等をするなどして有意義に会議を運営されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会にこられた際に、意見や要望を聞くようにしている。意見箱の設置もされている。意見に対してはホーム内の会議の時に職員に報告し、改善、運営に反映させている。今後は、家族会等を開催するなどして、家族の意見等をさらに聞くことのできる機会を設け、運営に反映させていくことが望まれる。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	堀掃除や、カン拾いに参加し、地域のお祭りや区の会議への参加をされている。お祭りの際にはおみこしがホームまで来てくれる。地域の住民がボランティアとして子どもと共にホームに訪問したり、日常的に地域に散歩に行くなどして交流をされている。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『家庭的な雰囲気の中で「ゆっくり」「いっしょに」「たのしみ」をモットーに潤いのある生活をしていただく』を理念とし、リビングに貼り出している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の貼り出しはあるものの、職員への浸透が十分になされていない。	○	管理者の理念に対する思いを、職員に伝えるような場を設けて、日々の介護に活かしていくことを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	堀掃除や、カン拾いに参加し、地域のお祭りや区の会議への参加をされている。地域の住民がボランティアとして子どもと共に訪問するなどの交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各項目を全員で一つ一つ読み上げて、意見を聞き、一つにまとめられている。評価が出たら、また全員で話し合い改善に取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回行事にあわせて行なわれている。家族も毎回交代で参加されている。行政の職員が参加される時には逆に質問等をして有意義に会議を運営されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	川副町の健康保健センターで開催されている川副ネットワークに参加され、情報交換、研修に取り組み質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月必ず家族が訪問されるので、その際に直接生活全般、診察の結果等を説明している。適宜必要に応じて電話連絡も行なっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会にこられた際に、意見や要望を聞くようにされ、意見箱も設置されている。意見に対しては会議時に職員に報告し運営に反映させている。	○	家族会等を開催するなどして、家族の意見等をさらに聞くことのできる機会を設け、運営に反映させていくことが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職などの際には、入居者とのコミュニケーションを密にし不安が無いように努めている。離職が無いように働きやすい環境に配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修には積極的に参加し、その内容はホームの会議で報告されている。また月1回のホームの会議で、職員を順番に講師担当にして研修等を行い、相乗効果による職員育成を促している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	川副ネットワーク・グループホーム連絡協議会等に参加することで、たくさんのネットワークを利用し、質の向上に取り組まれている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には見学や体験利用をしてもらい納得されてからの入居をされている。また併設のデイサービスを入居前に利用されるなど、馴染みながらの入居をされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	朝の掃除、調理の手伝いなどしてもらいながら、入居者と共に支えあう生活を築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声かけをし、話を聴くなどコミュニケーションを十分にとり、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努められている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	細部まで計画の作成をされている。毎月の会議で全職員で計画の確認をされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に一度全職員で、計画の見直しを行い、適宜新たな計画を作成されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診、美容室など家族で対応できないことを行なっている。また併設のデイサービスと共に行事を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各個人希望のかかりつけ医に受診をされている。納得のいく治療法を決めてもらい家族、かかりつけ医、協力医療機関、ホームで連携をとっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に文章で重度化終末期の同意をとられている。実際の時には再度家族等と連携を取りながら方針を決めていく。実際に看取りをされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者のプライバシーを損ねるような介護をしないように配慮されている。重要な情報は鍵付きのキャビネットに保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にして、気分よくすごしてもらえるように支援している。細かい配慮を行なうことで入居者のその日の状態把握をされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の用意、後片付けを共に行い、入居者の状況に合わせた食事を提供されている。食事の内容のみならず入居者同士の相性にも気を使われ座席など環境にも配慮されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夏は月水金、冬は火金の午前中に入浴を行い、入浴の無い日は清拭をされている。汚染時は適宜対応されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の個別の趣味や今までしてきた事を大切に、生活できるように支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は天気がよければ行き、花の水やりや草むしり、街への買い物などに行くようにされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を職員に説明し、開放するようにしている。センサー等を利用して入居者の動向を把握している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立会いで昼間・夜間の想定で消防訓練を行っている。運営推進会議でも話し合いを行なっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量やバランスをきちんと考えて献立を作り、各個人ごとにチェックされている。水分も自由に取れる環境にされている。個人に合わせた食事の形状や介助方法で支援されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空間ごとに扉を設けて、気温調整や音や光の調整をされている。入居者がいつも同じ場所ばかりに居なくていいように、複数の居場所を設けるなどの配慮をされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた好みのベットや布団、タンス等を持ち込まれ、入居者が使いやすく、居心地よいように設置されている。		